

近代の福祉に生きた女性パイオニア(その7)
フローレンス・ナイチンゲールとジェーン・アダムス

鈴木 真理子

Women Pioneers Who Lived for Modern Social Work (7):

Florence Nightingale and Jane Adams

Mariko SUZUKI

Although the work of Jane Adams had started in Chicago, it turned out to be an international work concerned with various matters such as social welfare and educational matter. Adams became famous in States that she had cooperated with the consecutive presidents for the right of politics of women. On the other hand, she went through the same tragedy by the World War One as the rest of Americans. In the war, a number of young Americans, including her nephew, volunteered for the army, but most of them had never returned. From the experience, she became devoted to the international acts for peace in the United Nation.

Meanwhile, Nightingale established a nursing school at the hospital of St Thomas. It enabled the students to learn more skills through the intensive lectures and all the students graduated from the school with a professional skill and value as a nurse. With this school, Nightingale succeeded in bringing out many excellent nurses to the world and gradually a nurse was considered as a profession with high-leveled skill. Other than educating nurses, she involved in the work for improving the circumstances of the dormitories of the army and she left a load of writings of her work.

Of all her works, she must have been addicted most in the nursing at home of the patient, which was called district-nurse. It nowadays is known as a home-helper, but its origin was in Nightingale's work. Even though she accomplished a splendid deed, which had great effects to the life of human being, there is only her initial on her grave as she had told her family to do so.

6章 世界へ波及する二人の影響

1 世界大戦の中での平和運動
—第一次大戦とアメリカ参戦—

1915年、大戦真っ只中、ドイツ、イギリスが激突している危険な大西洋を、アダムスはハーグに向かった。女性参政権を求め国際平和を婦人達の手で守ろうという国際婦人連盟(WIL)が催す国際会議に、アメリカ

代表として出席するためであった。世界12か国から選出された代表の中、議長としてアダムスは沈着冷静に役割を果し、参加者の緊張と高揚の中、穏健な平和条約を求める多くの決議を採択した。また国際会議の永続と、戦争の再発と解決のための国際裁判所の設置を提案した。「いかなる戦争処理においても住民の同意なく、領土の移行はあるべきでないこと」、「女性も国内的、国際的政治において代表として参加する資格がある」などを決議した。¹⁾

この女性会議は各国の著名なオピニオンリーダーである女性が集まって気炎を上げただけでなく、その決議文を戦争中の国、アメリカなど中立国の首長に手渡す行動を貫徹したことに意義がある。その使者に選ばれたアダムスは戦争の無残な残骸をつぶさに見ながら、オーストリア、オランダの首相に会見し、内心は平和を求めている各国首脳から好意的に迎えられた。アメリカに戻ると、ヨーロッパのざんごう戦での悲惨な死の戦いを証言する多くの講演を通して、平和と戦争反対を訴え、ウイルソン大統領に平和綱領を手渡した。

しかしこの旅行の強行軍がたたり、過労のため腎臓結核を発病、手術で片方摘出するという健康上のダメージを被った。以後2年間は療養のため、行動が制限された。この休養期間を利用して社会の女性の変遷と重ね合わせて、自分の女性としての半生を振り返る『女性史の長い道程』を執筆した。その本は「街路と子供の心」の次にアダムス本人が気にしているもので、娘から母への成長というすべての女性の共通の思い出と、戦争を嫌う女性の貴い特性を古今の神話や物語りから語っている。また、女性は育児と家庭、男性は社会で就労という近代家族の性役割分担に疑問すら抱かず、それを前提とした女性の特質を称えている。その素朴さは、現代フェミニストに言わせると、性差別意識を植付けられていると響きを買うだろう。社会的進出を遂げた現代フェミニストは、医学的性差以外は認めず、女らしさ、母性に代表される伝統的女性像をセクシスト²⁾のごとく定義するからだ。

しかし「街路と子供の心」を書いた頃、アダムスは町の公衆衛生改善を市当局に働きかけ、自ら清掃作業の検査官としてごみ収集作業に毎日同行し、腸チフスに感染して倒れた経験もしている。子供や平和を守ろうとする時、必ず体を張って犠牲を払うのは大いなる母性に共通の姿、無償の愛の行動ではなかるうか。無論命を守ろうとする貴い本能は、女性だけでなく男性にも存在する。

— 真の平和主義を貫く困難 —

1917年、1月22日、ウイルソンは有名な『勝利なき平和』のスピーチで、戦争終結と平和を訴えた。しかし、アダムスやその他の多くの平和主義者の活動にもかかわらず、同年2月のドイツの無制限潜水艦宣言に応酬して、4月ドイツに宣戦を決議するに至る。それはヨーロッパ戦線の膠着状態で犠牲者が激増している

連合軍を支援する止むに止まれぬ選択であった。アメリカの連合軍支援に、それまで参戦を我慢し続けた国民の愛国心は沸き立ち、アダムスの周辺的女性参政権運動の仲間、社会事業やハルハウスの仲間、中には教会や平和運動の同志までもが戦争協力に高揚する中、なお平和的解決収拾に望みをかけて、戦争反対を唱えたアダムスは臆病とか、非国民、親ドイツ派などと誹謗され無視された。男性の平和主義者が次々と愛国者になって転向する中、女性の彼女はなお自分の平和主義を貫いた。そのためこの時期に多くの友人、ハルハウスの支援者、読者を失い、孤独となった。

このころのアダムスのスピーチは「戦争時における愛国と平和主義」と題され、「平和主義は臆病でも裏切りでもなく、アメリカが世界の大国にふさわしい秩序ある国際関係に導くよう力を尽くすことを期待する」³⁾と結ばれている。しかしこの時の聴衆は冷淡で、教会の重鎮さえ彼女に反感を表した。時代が戦争へ向かう時、多くの大衆の興奮を求める血は参戦へと扇動される。その中で多勢と異なる意見、スタンスを保ち平和を主張することは、なんと勇気のいることだろう。非常時の挙国一致の重大事では、民主主義も個人も多様性も鳴りを潜めて、好戦の熱で封じられてしまう。

労働争議から公教育問題そして戦争参加についても、アダムスは常に中道派で、その立場は小気味良い程中立、平和主義を貫いている。それが時には急進派とか臆病者だとか、世間での呼び名が変わるのは、時代により世論の軸が右と左に揺れているからである。時代の波により急進派がいつか保守派になり、革新が数年前にはもっとも保守的だった立場と一致したりするように、社会の軸は変化し、絶対的正義などあり得ない。自分の古巣であるはずのハルハウスの中でさえ、ほとんどのレジデントが戦争協力を表明する中、アダムスは一人孤独を強いられた。

地区の移民も召応され、兵士登録所に指定されたハルハウスで住民が記録に並ぶ光景を心重く眺めた。中には彼女にぶつけ所のない怒りを表す者もいた。「もし俺がヨーロッパ戦線に送られたら、お礼を言うぜ。あんたが来てくれというから市民権クラブに入ったんだ。その記録がなかったら、軍隊に取られずにすんだのに。」⁴⁾

－戦争で飢えた子どもたちに食糧を－

このようなつらい時期にも彼女は平和原則を曲げず、自分の主義にふさわしい仕事を見いだした。戦争中、戦後の食糧難のヨーロッパにアメリカの食糧を節約、増産して送ろうという運動である。1918年、時の連邦食糧管理省長官、後の大統領ハーバード・フーバーは飢餓に陥ったベルギーに食糧運搬を成功させており、そのアピールに感銘を受け、「ヨーロッパの人々を救うために食べものを、国家間で食糧の危機には協力を」と説いて回った。

アメリカ中部の開拓村で少女期、製粉所の父親に影響を受けたアダムスは、土地を耕し食物を生産するのは人間の本能、そして家族に食事を準備するのが女性の務めと信じていた。それは農民や労働者と共に生きるという姿勢を、作品や個人の生き方をもって示したロシアの作家トルストイへの傾倒にも表れている。そのアダムスの素朴な信念にぴったりのスローガン、「世界の家族に食事を、ひもじい者へ食糧を」と学校、教会あらゆるところでキャンペーンを展開した。正義の戦いの優勢に酔い、心広くなっているアメリカ国民はそれを大いに好意的に受け入れたのである。ちょうど1918年、ウイルソンは平和原則14箇条⁵⁾を発表、その10月、四面楚歌となったドイツは講和を申し込み、同盟諸国も相次いで停戦、休戦を申し込んでいた。

戦後すぐの1919年、国際婦人連盟(WIL)は、再び4年前と同じよう第一次大戦の講和条約の内容について、将来の世界の平和に甚大な影響を及ぼすとして警告を発する活動を開始した。そのため、本物の講和会議がヴェルサイユで行われるのに模して、チューリッヒで国際会議を開催し、アダムスはアメリカ代表として参加した。その途中アメリカ赤十字の敗戦地視察団に同行し、多くのざんごうと死体の山、飢えに苦しむヨーロッパの子供達を見た。それが敗戦国ドイツへの食糧、医療の援助を呼びかける講演活動となった。しかし、ロシア革命以後の共産主義者への恐怖、ドイツ人など移民への反感が不況の訪れとともに高まっている時期、初期には好感と共感と呼んだアダムスのドイツへの同情は、戦争責任者への甘やかし過ぎとアメリカ国民の反感をかかった。

1920年、アメリカ人はソ連、東欧で共産主義化のため、コミュニストへの恐怖をつのらせていた。司法省は赤狩りと称される大規模な労働者、組合員の逮捕を

行っており、アダムスは多くの社会活動家を擁護、保護していたので、当時の検察局のコミュニストリストにはアダムスの名前も載せられていた。そしてソーシャルワーカー協会の会長に立候補したくとも、彼女の絶対戦争反対の平和主義が災いして、多くのメンバーに拒否された。1922-3年の時代は講演依頼もほとんどなく、1922年の「戦争時の平和とパン」の著作は、出版されたものの人々にほとんど受け入れられなかった。

この不遇の時代、彼女は国際婦人連盟のために世界中を旅をして心を慰めていた。アジアを回ったついでに1923年、関東大震災に見舞われる前の日本に立ち寄り、大勢の学童や大衆に歓迎されている。またちょうど東京で胸の腫瘍の手術をしているが、それが後悪化し、数度の手術のすえ死の原因となった。インドではその非暴力抵抗の平和主義をアダムス自身高く評価するマハトマ・ガンジーにも会見している。このころアダムスはセツルメント活動から舞台を世界に移し、対象を「シカゴスラムの移民の生活向上から世界の後進国」、「敗戦国の子供と女性に世界の平和と貧困救済を」という大きな目標に拡大移行させていた。

2 病院改革と看護教育の始まり

－聖トマス病院看護学校設立－

ナイチンゲールはクリミアで得た病いのため寝たきりの生活を強いられていたが、頭で考えるのは兵士の墓に誓った陸軍の改革と看護の向上のことばかりであった。それらの思いとクリミアでの経験をもとに、病院の理想像、理念を綴った『病院覚書』、そして看護の原典ともいうべき『看護覚書』を1858年、59年相次いで出版している。昼は陸軍改革委員会の協議や資料作り、夜は生きているうちに書き残そうと体に鞭打つようにペンを走らせた。社交や公の行事などあらゆる外的活動から引退し、部屋にこもって調査資料、原稿に埋もれて執筆にあたる。これこそナイチンゲールが一番望んだ境遇だった。

この『病院覚書』はクリミアの陸軍病院やロンドンの「淑女病院」での経験、その前に滞在して見学した幾つかの病院を素材として、ナイチンゲールの病院への理想、改善点を具体的に図入で解説したものである。1872年、聖トマス病院⁶⁾にはナイチンゲールの理想を実現した病棟が建設された。このナイチンゲール病棟とは、厳しい規律と看護婦長の監視が行き届くように、

病棟の真ん中にナースステーションが設置され、そこからぐるりと病棟全体、看護婦の一举手一投足が見渡せるようになっていく。看護婦の不適当な看護や鈍い動き、不謹慎な言動、居眠りなどは直ちに婦長にチェックされ、以前とは違って変わって看護の仕事への厳密な姿勢が要求されることになった。と同時に、病棟内の絶対的な静粛と規律の厳しさも実現された。ナースステーションからの観察は看護婦の監視よりも、病人の様子を常時少ない看護婦で把握するためであったが、空間の効率的利用、患者同士の交流による気分転換などプラス面も多々あった。

病棟のベッドの間隔は1.5メートル、その空間と窓による換気への配慮は、病院内の感染予防のためである。つまりその時代には感染、細菌への公衆衛生と殺菌技術、薬品はまださほど発達せず、自然感染を防ぐためには換気しかなかったからである。19世紀前半に殺菌消毒、麻酔、止血の技術がやっと開発された。ナイチンゲールが看護婦への決意を固めたころ、ボストン、マサチューセッツ総合病院ではモートンがエーテル麻酔に成功し、ウイルヒョウは「細胞病理学」を著していた。リスターの石炭酸による消毒法の実用化はその数年後、コッホ、パスツールの細菌の発見(1885年)、キュリー夫人によるレントゲンの発見は、ナイチンゲールの晩年(1895年)であった。

病院の居住性を改善し、居心地の良い、快適な病室を患者のために確保しようとする姿勢は、最新の建築学の指摘が織り込まれた「病院覚書」の中に見いだせる。「窓は硝子の二重窓、壁天井の色彩は暗くならないように、ベッドマットはわら製品ではなく羽毛布団が良い。ベッド数は病棟あたり20-32床、個室は32床あたりに2床として重病人、他の患者に不快病状の者用。窓は少なくともベッド2つにひとつ、浴室は大浴室と小浴室を設け、大浴室は暖房と換気を十分に、床は木製で、壁は白タイルかセメント、シャワーを備える。小浴場は保温性が良く清潔感のある、テラコッタ製にする。便所の設備については他より詳しく、円錐形ではなく半球型で大量の水が流せるサイフォン式便器、流しは大型で深く、丸型の穴がついた陶製のもので、排水穴の上に水栓のついた汚物流しを便所の脇に設置する。なお洗面所、便所、浴室は乾燥させ清潔をたもつ。テラスは歩行可能でベッドごと出せるように等。⁸⁾

ナイチンゲール病棟の大病棟はその後、20世紀に入って配管、照明などの近代建築の発達、ガラス、タイル

など建築材の発達によって、トイレの完備した現代の個室式に変革をとげた。しかし、また20世紀後半、患者の相互交流の精神的環境やコスト、看護婦の機動性の面などから重病人以外は、病人同士のコミュニケーションによる効用が再び評価されるようになって、個室と大部屋の併設で現在に至っている。ちょうどその頃、陸軍改革委員会と並行して病院付属看護学校の設定が準備されていた。以前クリミアでのナイチンゲールの功績を称賛し、支援する国民から集められたナイチンゲール基金がいよいよ生かされる時がきたのだ。ちょうど『病院覚書』を携えて新しい病院建設の相談にやってきた聖トマス病院に、ナイチンゲールは白羽の矢を立てた。その病院には、スクタリで最も頼りになった看護婦、ロバーツ夫人を仕込んだワードローバ夫人が看護監督をしていたからである。ナイチンゲール自身の健康から自分が教壇に立てない以上、すべてを委ねなければならない指導監督教官の資質と人格には非常にこだわった。ナイチンゲールの看護の理想を実現する良きパートナーと病院がなければ、看護婦教育は不可能と時期到来をまっていたのである。ワードローバ夫人はナイチンゲールの鑑識眼に適う看護婦の資質と教育者の条件を合わせ持っており、なにより出身がレディで、そのころの看護婦に珍しい教養ある女性であった。

— 専門職としてのナース教育 —

1860年、ナイチンゲール40歳にして、ドイツのカイゼルベルスト学園以来、夢に描いていた看護学校の実現を見た。カイゼルベルストは福祉施設付属のプロテスタント修道女会の看護学園で牧師の指揮下にあったが、ナイチンゲール看護学校の場合は、純粹の看護教育を目的とした病院付属の専門職学校であった。カイゼルベルスト学園を興したフリードナー牧師は、看護婦は信仰があつく立派な女性でなければならないと主張していたが、ナイチンゲールはクリミアの経験やロバーツ夫人の働きから、頭の中の信仰よりも良き行動を重んじる専門看護人を養成しようとした。見習い生はシスターと医師から技術的訓練を受け、教室での授業と病棟での実習、そして看護の科学的理論を学ぶ。動かさない患者のベッドのシーツ交換から包帯法、傷の手当、脈拍の見方、観察法、一年では学習できないほどの盛りだくさんの内容が用意された。

ナイチンゲールの専門職としての看護への要求水準

は大変高いものがある。これも彼女の理想と思いの丈が『看護覚書』に込められている。「すぐれた看護スタッフはいろいろと不利な条件下にあっても、多かれすくなかれ満足できるように自分達の職務を果すであろう。しかしその一方で、彼女達の長は副次的な作業からナースを解放して、もっぱら患者の世話に時間を投入できるよう、労働環境を改善することに常時心を砕いているはずである。なんとと言っても病人の世話をするのが彼女たちの真の目的なのであるから。」⁹⁾

単なる付き添い婦ではない看護専門職としての地位確立の理論的バックボーンは、彼女の著作の至るところにみだせる。「看護婦は看護に専念すべきだ。雑役婦が欲しいなら雇えば良い。看護婦は専門職なのだ」¹⁰⁾「看護婦が専門家であるためには病気の自然の法則を知らねばならない。看護の要は患者の観察である。看護婦のABCとは、患者の表情に現れる変化を患者自らが苦勞して語らなくとも、理解することができるということだ」¹¹⁾

「患者が自分で体を動かさないですむために、看護婦は存在する。と普通は考えられているが、私はむしろ患者が、自分で自分のことを思い煩わなくともすむために、看護婦は存在すると言いたい」¹²⁾とまで言っているが、これはあまりに気負いすぎに思える。患者の自己決定なり、自分で考え悩む存在まで否定しているようで、現代の医学のインフォームドコンセントの流れからはいきすぎ、越権行為もほどほどにと言える。不意味な不安や懸念は取り除くべきだが、自分で考えることは患者に自分の病氣と闘う力を与えることにもなる。

「この本は看護という仕事をもつ趣や面白さをすべて取り去ってしまい、人間の仕事のうち最も無味乾燥でつまらないものにしてしまった、と人々はいうであろう。わが愛する姉妹よ、教育の仕事は恐らく例外であろうが、この世の中に看護ほど無味乾燥どころか、その正反対のもの、すなわち自分自身は決して感じたことのない、他人の感情のただ中に自己を投入する能力を、これほど必要とする仕事は外に存在しない。そしてもしあなたがたがこの能力を全然もっていないなら、あなたは看護から身を引いた方がよいであろう。」¹³⁾

「自分自身は決して感じたことのない、他人の感情のただ中に自己を投入する能力」こそ、この章の最後に述べる福祉と看護に共通の必須能力“共感”のことである。

このようにナイチンゲールの看護への深き思いが随所に表れているが、現代の若い看護学生には身を引き締めるどころか、恐れをなして逃げ出すような厳しさがある。それほどナイチンゲールが看護の仕事が高く強く表現しなければ、戦時でないロンドンで、過去の女中より低かった看護婦への一般通念、偏見をうち破ることが困難だったのだろう。

「いままでの必要最低限の知識で十分さ」「一年もかけて看護婦の訓練なんて必要があるのか」「看護婦なんて女なら誰でもできる、メイドみたいなものだから」という周囲や医者騒音を聞き流しながら、第一期生15名(25歳から30歳)は、生活面からの躰、道徳的態度を身につけるため全員寮生活を義務付けられた。これらの寮費用、貸与する制服、教師たちの教授料、実験や学習の教材などすべては、ナイチンゲール基金で賄われた。

看護婦長とナイチンゲールが練りあげた訓練中の見習い看護婦の規則に、求めている看護婦の基本的人格が良くあらわされており、いかにその時代の働く女性の資質レベルが低かったか推測される。

「酒に酔ってはいけない、正直でなければいけない、信頼されること、時間を厳守すること、物静かで秩序正しいこと、清潔で端正であること」¹⁴⁾

実際入学直後、3人が退学させられた。

—世界に散るナイチンゲールナース—

この学校ができて翌年、基金と学校設立に尽力したハーバード卿は、療養の甲斐なく亡くなっている。看護指導の成果は、ワードローパー夫人を通じてナイチンゲールに逐一報告された。ナイチンゲールは自分が直接は関与できない看護学生一人一人に、愛のこもった激励と忠告の手紙を少なくとも年一度書き送った。自分が直接教育できない分、生徒に込める思い入れは深いものがあり、一人一人の特性に応じて進路を決定したり、冷静な配慮と愛情が伝わる多くの手紙が残されている。

一年の訓練が終わりワードローパー夫人が資格ありと認めると、病院の登録簿に記入され、「有資格看護婦」が誕生する。史上初めてのナイチンゲール・ナースの誕生だ。その金の卵を求めて国中の病院から、看護婦求人希望が寄せられた。ナイチンゲールの計画では卒業生を数名ずつ病院に派遣し、そこでナイチンゲール

ル方式の看護学校を指導させ、新たな養成組織を鼠算式に増やそうというものだった。ただし聖トマス病院看護学校が15名だったように、当時は病院自体今ほど大規模ではなく、看護婦も病院での業務を行いながらの看護教育であったので、現代のように大規模なものではできなかった。スコットランド、アイルランド、オーストリア、スウェーデン、ドイツまで、卒業生はナイチンゲール方式を徐々に浸透させていった。

また職業婦人としての看護婦の地位は、医学の発達とともに社会的に重要になっていった。「民間の大病院では婦長は平均して年俸50ポンド支給される。食事はつかず、光熱手当、普通は家具なしの2部屋を与えられ、見習い看護婦は平均して週給12シリング(年俸31ポンド)である。クリミア戦争採用の政府雇いの看護婦は週給18シリングで、部屋と食事、光熱費、衣料の一部は提供された。」¹⁵⁾

そのように希少価値のある貴重なナイチンゲール・ナースであるから、求人希望を受けたからとどこにでも派遣するわけには行かない。その重要度、将来性などをナイチンゲール自身が慎重に吟味して、環境条件の厳しい所こそ優秀なナイチンゲール・ナースの複数の一団を差し向けた。自分がクリミアで受けた経験をもとに、ナイチンゲールの深い配慮が表れている。

困難な条件の病院に、どんなに優秀でも一人だけの看護婦を派遣することは「一本の針を干し草の束に置くようなもの、あるいは古着に新しいつぎを当てるようなもの。針は干し草の束に見失われ、新しいつぎは古着のほころびを大きくするだけ。少ない貴重な看護婦をそんなふうは無駄につかいたくない」¹⁶⁾

— 貴重な人材の有効活用 —

クリミアでの内部摩擦の経験がよほど堪えたのであろう、まことに人材の有効利用を示唆するナイチンゲールの慧眼としか言いようがない。良貨は多勢の悪貨の中では、程なく錆びて駆逐されてしまうのが世間の常識であった。それを考えた時、一層ナイチンゲールの凄さが際立つのである。ナイチンゲール方式の看護学校を世界に普及させるため、1986年にはシドニーに5人、カナダにも送った。アメリカからは大勢の留学生がやってきて、帰国後ナイチンゲール方式の看護学校を普及させた。日本では慈恵医大の副院長、高木兼寛が1885年イギリスに留学した際、聖トマス病院看護学校に感激し帰国後、それに習って看護教育を開始

している。他にも明治19年(1886)に発足した東京大学医学部付属看護学校は、まさに聖トマス看護学校の卒業生、アグネス・ヴェッチ・ナースが指導した。また京都、同志社にあった看護学校のリンダ・リチャーズ教師は、同じく聖トマス病院への留学生だった。

このようにナイチンゲール看護方式を広く波及させる過程においては、大きな犠牲も払われている。1865年、聖トマス病院看護婦訓練学校の優秀な卒業生、アグネス・ジョーンズはリバプールの救貧院病院に12人の看護婦とともに送られている。社会の貧困層の病人にも人間的看護をとという設立者ラズボーンの強い要請に、貧困問題に対する関心と貢献意欲の旺盛だったナイチンゲールが、応える形でナイチンゲールの代わりの使者としてアグネスを派遣した。彼女は十分期待に沿う仕事をして、不運にも1868年、チフスに感染して亡くなっている。その死をナイチンゲールは心から悼み、困難な条件でナイチンゲール・ナースとしての献身的な任務遂行を称えた追悼文、『ユナとライオン』を一気に書き上げた。

「一人の女性が亡くなった。魅力に溢れ、心豊かで若く才気に満ちた女性が亡くなった。彼女は、思いを内に秘め、言葉少なく、自分を目立たせなかったが、その天性によって他の人より際立って目立った。彼女は神のみ子の跡を歩もうとしていた。そして人を訓練するため、(中略)仕事の半ばで自己を燃焼しつくした。私達は彼女の死を無駄にしてもよいだろうか?」¹⁷⁾

『病院覚書』『看護婦覚書』がいかにナイチンゲールの思想を普及させたとは言え、看護婦が病院の宝となったのは一朝一夕のことではない。それは聖トマス病院看護訓練学校の卒業生たちの、世界の隅々の施設や病院での無名の働きに因ることが大きい。彼女達の行く手の病院の内部では古い看護婦の集団と新しい集団の軋轢が多く存在し、また従来の看護婦への悪いイメージの偏見など道は多難であった。しかし、おそらくクリミア半島でナイチンゲールが戦ったほどの偏見と偏狭さ、悪意には後人の彼女らは出会わずに済んだのではなかろうか。

3 晩年の著作と栄誉

— ナイチンゲールを影で支えた人々 —

いつの世にも組織や利権に巣くいその縄張りを守るため、新参ものを排他する部類の人々はいる。その既得権を守るという利益原則の堅固な団結力を打ち破るには、一個人の正義の主張、行動だけではあまりに弱い。小さいながらも複数の味方があってこそ、その戦いを持続させ、いつの日か優勢に導くこともできる。クリミア戦争における野戦病院内の主導権争いとも言うべき人間臭い戦いでナイチンゲールを支えたのは、多くのナイチンゲール崇拝者であった。家からつれてきた家政婦、ブレスブリッジ夫妻、タイムス紙のマクドナルド記者、オズボーン牧師などである。そして誠心誠意尽くして疲労のため、やむなく帰国を選んだブレスブリッジ夫妻の代わりにナイチンゲールの身辺を世話した、家族よりその気心を知ったメイ叔母であった。メイ叔母はナイチンゲールの晩年も自分が老齢で動けなくなるまで、代筆から食事の世話といつもそばにいて秘書役をこなした。他にも過労で死期を早めたハーバード卿など、ナイチンゲールの周囲には、熱心な崇拝者が忠実な助手、手足となって常に支えてくれた。決してナイチンゲールが孤独で闘ったわけではない。彼らは一種のナイチンゲール教の信者とも言える。

他にもナイチンゲールの人格と行為を崇拝して求婚した領主、ヴァーネー卿もいる。かれはナイチンゲールの姉と結婚した後もナイチンゲールの協力者となっており、看護学校の経営など協力を惜しななかった。彼自身、社会事業に人一倍関心を持ち、自分のバッキンガムシャーの領地での農民の生活向上など改革を行っており、ナイチンゲールの仕事の助手とし、父親、母親、姉以上に身近な協力者として死ぬまでナイチンゲールの良き支援者であった。ヴァーネー卿の亡くなった時、ナイチンゲールは74歳であった。

もう一人クリミア戦争の陸軍調査団で、ナイチンゲールの女性らしからぬ理論的構築と徹底実践に敬服し、以後小陸軍省の参謀として協力し、メイ叔母が秘書を引退したあとは秘書役として、ナイチンゲールの著作の資料作成など、死ぬまで献身したサザーランド博士がいる。最後ナイチンゲールの死を見取ったのは、彼であった。

看護学校の運営、管理については学生や関係者への

手紙や、理事会、教師陣への指示によって行うかたわら、ナイチンゲールはインドの病院や貧困問題についても多くの著述を著している。1858年東インド会社が崩壊し、ビクトリア女王自ら支配宣言したイギリスはインドへの勢力を強め、1877年には女王がインド皇帝になるなど、多大な軍隊や人力を投入していた。本国でのインド熱の高まりに、ナイチンゲールの国際的な関心と使命感が触発されての『印度行政への所見』、『どうしたらインドで人は死なないで生きていけるか』(1863年)、『インドにおける生と死』(1873年)、『インドの病院における看護』(1865年)、1876年のインド大飢饉に心を痛めて『インドの人々』(1878年)など次々に本を著した。その数39冊に及ぶ。¹⁸⁾

きっかけは、クリミアと同様インドに駐屯しているイギリス陸軍の衛生状態改善であった。イギリス陸軍の派遣基地に死亡率、有病率、兵舎の構造、水の状況、兵士の衣食住などの質問状をおくり、その回答の内容を4年かかって報告書にまとめた。国内の陸軍改革の次の仕事をインドに向けたのである。一時はイギリスきってのインド通として、多くのインド帰り、またはインドに向かう人間はナイチンゲールの所に寄り、まず情報と意見を聞いたという。「ナイチンゲールはインド総督だ」¹⁹⁾という冗談も言われるほどであった。

関心はインドのイギリス軍隊から、農民の農業改革や保健衛生に拡大して行った。そしてインドの貧困の原因を封建的な土地制度にあるとし、灌漑の必要性を説くなど、例によって物事の核心をつく先見の明もあった。このようにナイチンゲールは病身でも、また女でもなければ、行政官か軍人として偉大な改革者として自ら改革の指揮をとただろう。1870年の友人への手紙にはこう書き送っている。「過去11年私がインドのためにしてきたことは、ささやかなことでした。が永遠なる神は、インド人であろうと、ヨーロッパ人であろうと、人々の健康と幸せを望んでおられるのです。私の思いはいつもそこにあります」²⁰⁾

しかし、自分が行ったことも見たこともない土地、それも広大で、文化風土の極端に差異の激しい国を、伝聞、話、記事、報告書だけを土台に分析し、過去のクリミアの経験に照らし合わせて、イギリス軍の病院改革や衛生改善について正確な処方箋を述べるのは多少無理があった。インドの歴史宗教による風俗の違い、気温、湿度、土地柄など自分の足と皮膚で感じなければ言えないことも多く、はるか遠くの英国の地で病人

生活をしているナイチンゲールでは、インドへの思い入れや改革への情熱だけは尊敬に値するが、一人善がりの空論になり易い面もあった。

文化人類学、地理学、社会調査はフィールドワークが土台であり、報告書と資料だけでは、その実態に迫るのは無理があったようだ。その例として、インドの病院でもイギリスの住居や病院での実践同様、換気のため窓を常に明けることを強調したと言う。温和な気候ならそれは的を得た指摘であったのだが、これを同じインドの病院にたいしても強引に主張したが、湿度の高さと昼間の40度を越す酷暑では窓は少なく、閉めきった方が過ごし易い場合が多く、顰蹙をかった。50年間ほとんど世間の実態に触れずに生活したのであるから、恐らく看護教育、技術においても、医学の発達急速さについていけず、時代遅れの指示もあったであろう。晩年はその辺をうまく繕い庇う側近に恵まれていたと思われる。

―生涯の功績と永眠―

ナイチンゲールの生涯の仕事は「クリミア戦争での看護の実践」、「聖トマス看護学校の設立」、そして「看護とインドの調査などの著作活動」と3つに分けられる。クリミア戦争、聖トマス看護学校の業績については詳しくのべたので、看護婦についてその後の資格制度のエピソードを補足する。

ナイチンゲールは、看護婦の養成、育成、その専門性の陶冶に一生を捧げたが、その組織化、国家試験制度には最後まで異を唱えた。1886年、イギリス病院協会は増加した訓練学校の卒業生に共通試験を行い、一定の水準以上の看護婦に資格を与えて登録させる計画を練った。専門職としてのある程度の水準維持と、社会的な地位、つまり業務独占の確保を意図してのことである。

現在ほとんどの国に医師、看護婦の国家試験が普及し、その専門職種として業務独占の地位が確立しているが、それを期待する英国で育った多くのベテラン看護婦集団はこれに大賛成であった。時代はパリコミュン²¹⁾後の労働者の団結の時代である。イギリスにおいても続々と職業別組合が結成され、1871年、労働組合法が制定され、看護婦登録制度化の動きが始まった1884年には、フェビアン協会²²⁾も設立されている。このフェビアン協会とは、シドニー・ウエップ、ベアトリーチェ・ウエップなど社会主義穏健派による政党で、労

働者と市民階級の融合した理念を掲げた。

看護登録制度成立までの7年間、ナイチンゲールは、「看護という職業は標準テストをあてはめることができるほど成熟していません。一体テストで看護婦をふるい分けられるでしょうか。知識、技術はともかく、有能な看護婦であるために欠くことのできない、他人に尽くそうという熱意や優しさや同情などの資質を紙の上で評価できるでしょうか。私はそうは思いません。それができるのは、その看護婦が卒業した学校の指導看護婦だけです。」²³⁾と論陣をはって徹底的に看護協会と論争を続けた。

ナイチンゲールにしてみれば、より高い理想とたゆまぬ研鑽を志してこそ、専門職たりうるのに、それ以前に社会的資格制度で身分の保障を図ろうなど、浅ましくもっての他というところだろう。しかし看護婦も専門職業の一つ、職能集団として社会的認知は重要で、労働者の面も否定はできず組織化は時代の流れであった。1893年、国家試験は実現しなかったものの看護協会独自の登録制度を開始した。

ナイチンゲールの発した警告は、看護婦だけでなく、弱い立場にある人を援助する社会福祉分野の職種にも共通する課題であり、その専門職の資格制度の在り方を巡って多くの国で課題とされている。²⁴⁾ 医者や看護婦、レントゲン技師など医療関係職は多くの国で専門化集団としての国家資格制度が設けられ業務独占²⁵⁾であり、それなりの倫理綱領をもち技術と社会的身分を保障されている。ナイチンゲールの場合、クリミアで自ら看護婦を訓練した経験から、その専門的技術や資質は規格品のように、記述試験の点数、また断片的暗記による知識の量では推し量れないという信念があったようだ。

しかし国の統一資格制度には難色をしめしても、新しい看護分野の開拓には支援を惜しまない先見の明があった。リバプール訪問看護婦養成学校への訓練指導のノウハウの伝授、『町や村での健康教育』の他、出版を通じて農村の家庭への健康衛生管理を指導する「ヘルスマッショナー運動」にも協力した。また訪問看護を行う地域看護婦組織、1886年のビクトリア女王即位50年記念のクイズ地区看護婦協会設立への支援協力など、病院看護婦だけでなく幅広い看護の活躍の場、需要への対応を予見していた。これはリーハストの館で農家の病人を看護したり、独立して疎遠な仲とは言え、父、母、姉の順に臨終を看病した経験から在宅看

護の重要さを人一倍認識していたからであろう。また重病人は入院し、死をほとんど病院で迎える現代とは異なり、多くが家で亡くなっていた当時では、医者への往診と訪問看護は医療の大部分を占めていた。現在ノーマライゼーション²⁶⁾やクオリティ・オブ・ライフ²⁷⁾の価値観から、在宅介護、訪問看護が再び中心に据えられる時代に、改めてナイチンゲールの看護の基本理念をひもとくことは、大いに参考になるはずである。

一ナイチンゲール看護は現代の在宅介護一

看護覚書に主張されているナイチンゲールの看護の心得は、現代で言えばそっくり在宅介護に当てはまる。高度水準に達した現代医学ではナイチンゲール看護の神髄だけは原論として意義を持つが、具体的各論についてはプリミティブ(素朴)過ぎる。

最後にナイチンゲールの作家としての面であるが、「私の選ぶ進路は3つあった。それは女流作家になるか、奥さんになるか、それとも病院のシスターになるかであった」²⁸⁾。と述べているくらいアダムス同様、書くことが人生の足跡であった。しかし「書くことは生きることの代用品にしか過ぎません」と言い切るとく、病身の身であればこそそのペンの選択であった。もし健康に恵まれていたらより大勢の人を通じて、生き生きとした感性を発露させることもできたであろうが、歴史的な影響力、カリスマ性においてはどうであったろう。健康で看護婦長、看護教育者となっていたら、世界のナイチンゲール、看護の母というより、看護学校の一創始者として地味な名声に留まったのではないだろうか。ここにも歴史的逆説がある。

ナイチンゲールの人との連絡は手紙を通じてであったし、彼女程ペンを武器に陸軍、病院の改革、看護学校開設をやり遂げた者はいない。実際彼女は書くことに優れ、独創的で新鮮な発想を緻密な文章構成で訴える才能に恵まれていた。90年の生涯にわたる文筆活動において、看護、インドに関係する150もの著作の中に『思索への示唆』という人間の精神、宗教哲学に関した膨大な3巻の著作がある。その中で敬謙なキリスト教徒でありながら、壮年期から英国国教会に距離をおき、かといってカソリックにも傾倒できない誠実なキリスト教徒の心情を吐露し、ある友人への手紙にこう告白している。

「カソリックの教会は、私が信じることのできないことを無理に信じさせようとしています。一方英国国教会は、

あまりにも個人にたいして無関心で私が信じているかどうかも知らずともしない」²⁹⁾キリスト者としての根本的信仰はあっても、教会組織に属して活動することはまた違う次元のことである。これはアダムスにおいても同様であった。

晩年で名誉の一つ、1883年に赤十字勲章を受けている。赤十字はスイス人のアンリ・ジュナンがナイチンゲールのクリミアでの働きに触発されて、ソルフェリーノの戦いの傷病兵を敵味方の区別なく救助した後、国際的な傷病兵救助を提唱し、1864年発足させたものである。このアンリ・ジュナンは1901年にノーベル平和を授与され、ナイチンゲールも赤十字には協力を惜しまなかった。また彼女は1907年には女性でただ一人、英国エドワード7世有功勲章を授与されたが、もはや授与式にバッキンガム宮殿には赴けない高齢であった。もともと国家的栄誉とか称賛には淡泊であったから、本人の名誉心の満足より周囲の看護の分野にかかわる人々の意識高揚に与えた影響は大きい。

外出もままならないほど病弱でありながら、すべての身近な身内の死を看取り、多くの友人、協力者を見送り、86歳にして失明する。しかしその後もナイチンゲールの生命力は強く、90歳まで生きながらえる。最後の数年は記憶力も衰え、恍惚の人に近かった。家族の中で一番病床期が長かったにもかかわらず、その寿命はだれよりも一番長かった。

1910年、90歳の8月13日眠りについたらまま、目覚めることなく永眠した。新聞には「ランプを持つレディ永眠する」「クリミアのヒロインの他界」などと報じられた。半ば伝説上の人物になっていたナイチンゲールがまだ生きたことにびっくりするほど、晩年は世間から忘れられていた。同年アンリ・ジュナンも無くなっている。

死後、英雄あつかいされるのを嫌ったナイチンゲールの遺言により、国葬やウエストミンスター寺院埋葬は行われず、両親の眠るセント・マーガレット教会の墓地にひっそりと葬られた。遺書には献体の意志も書かれていたという。この教会はかつてナイチンゲール一家がエンブリーの館に滞在中、日曜日のミサに訪れた教会である。墓碑にはこれも遺志により、F.N.というイニシアルだけが刻まれた。

注

- 1) Leslie A. Wheeler 『Jane Addams』 Silver Buerdett Press, Inc, 1990 p103
- 2) 性差別主義者 性(セックスsex)で差別する人を呼ぶ、人種(レイスrace)で差別する人はレイシスト
- 3) 同 1) chapter 10「Saint Jane Again (孤独な平和主義者)」 p120
- 4) 同 3) p124
- 5) T.ルーズベルト 1901-1909
ウイルソン 1913-1921
H・フバー 1929-1935
ウイルソンの平和14カ条
- 6) 聖トマス病院 ロンドンにある一番古い総合病院
- 7) 薄井坦子他訳「女性による陸軍病院の看護」『ナイチンゲール著作集』 第1巻、
現代社、1983年、p52
- 8) 金井一薫「ナイチンゲール病棟にみる看護の原型」『総合看護』14巻4号、 1979年、p63
- 9) 同7)「救貧病院における看護」第2巻 29頁
- 10) 同上 67頁
- 11) 同上 217頁
- 12) 同上 177頁
- 13) 同7)「看護覚書補遺集」217頁
- 14) 足沢良子 世界の伝記「ナイチンゲール」
ぎょうせい 1978年、231頁
- 15) 同7)「女性による陸軍病院の看護」『ナイチンゲール著作集』第1巻、現代社 1983年 89頁
- 16) 同14) 213頁
- 17) 同上 240頁
- 18) 小玉香津子 『世界伝記文庫 ナイチンゲール』
国土社 1975年 192頁
- 19) 同上 199頁
- 20) 同14)「健康と幸せのために」255頁
- 21) パリコミュン 普仏戦争中の1871年、パリに樹立された小市民と労働者による革命的自治政権。フランス臨時政府に弾圧され終ったが、ロシア革命に影響を与えた。
- 22) 非マルクス・レーニン主義的社會主義であり、革命によらず議會主義を通じて社會主義化する。功利主義的価値観を基に土地や産業資本の公有化による民主的管理で主体を労働者階級に限定しない、市民層中心の極めて穩健な社會主義。
- 23) 小玉香津子『世界伝記文庫 ナイチンゲール』
国土社、1975年 235頁
- 24) わが国ではソーシャルワーカー協会など、倫理綱領をもつ専門職の民間団体は存在するが、確たる資格制度はなかった。1987年社会福祉関係の国家資格制度として社会福祉士、介護福祉士制度が成立した。
- 25) 業務独占とは、医者、看護婦や弁護士のようにその資格がないと、その職業について業務を行えないが、名称独占とは名称だけは独占できるがその業務、職務は資格がなくとも遂行できる。
- 26) 1959年、デンマークの知的障害者の施設ケア改善に源を發し、スウェーデンにひろがった福祉理念。
障害者、高齢者も普通の生活ができる社会を目指すという運動。施設への隔離ではない、地域でのコミュニケイケアを推奨する。人間の尊厳を尊重した、自己決定による自己実現を目指す福祉全体に流れる基本理念。
- 27) 「QOL」物質的豊かさや量で推し量る価値観から、生活の質に重点をおく価値観。病人、障害者、高齢者など医療や福祉の対象者においても近年の価値観が重視されてきた。
- 28) 同20) 258頁
- 29) 同上 264頁